

2011年9月8日

＜ダイキン「第17回 現代人の空気感調査」＞
全国600名に聞きました「節電の夏を過ごして変わったもの、変わらなかったもの」

**全国的に高い節電意識が持続
 試して実感、暑さ対策の多様化**

ダイキン工業株式会社は、東北・東京電力管内エリア（以下、東北・関東エリア）とその他エリアの20代～70代の男女600人を対象に「節電の夏を過ごして変わったもの、変わらなかったもの」をテーマに、9月3・4日の2日間にわたってアンケートを実施しました。

17回目となる今回は、今年5月に行った「今夏の節電と空気」に関する意識調査の追跡調査と位置づけています。5月時点では、電力不足に対する危機意識が高く、9割の人が「今夏は節電に意欲的に取り組みたい」と回答していました。震災を機に節電を意識した“節電ビギナー”が2割もいることがわかり、国民全体が高い節電意識を持って前向きに夏を迎えようとしている実態が明らかになりました。

しかし、従来以上に厳しい節電対策を実施し、不便さや不快感を感じた人々は、ひと夏を終えた今、節電に対してどう感じ、振り返っているのでしょうか。節電の夏を過ごして、人々の意識や行動がどのように変化したのかを調べました。

調査の企画段階では、「節電対策による厳しい夏を過ごした後では、節電意識がトーンダウンする可能性がある」と予想しましたが、実際は、今後の節電に対しても高い意識を持続していることが分かりました。

今夏の節電の経験は、国民全体が不便に感じつつも、節電を自分ごととして受け入れ、日々の生活のなかで様々な工夫を試しながら、その過程で様々な学びや気づきにつながったようです。特に、震災を機に節電を意識するようになった“節電ビギナー”は、節電術を生活に取り入れることで、電気のありがみや自身の無駄遣いを実感し、節電への意識が大きく変化しています。

避暑対策としても、打ち水やすだれなど、昔ながらの知恵・工夫を凝らした結果、涼しさを実感できることを体感し、今後も電力に依存しない様々な避暑対策を試そうとする傾向が読み取れます。エアコンに関しても「改めてありがたみを感じた」と言う声がある一方で、「これまで過度に依存していた」という反省や「テレビの特集を見てもっと上手に使わなければと思った」など使い方の見直しに言及する意見も多く、今夏はこれまでの自分自身を振り返り、考えや行動を見直すきっかけになったといえそうです。

本調査の主な結果は以下の通りです。

I. 「緊急対策」から「日常」に変わる節電意識	P.2
II. 節電元年！全国で臨んだ節電の夏 ～ 節電ビギナーほど大きく変化 ～	P.3-5
II-1) ライフスタイルが大きく変化したビギナー層	
II-2) 今夏をきっかけに多様化する夏の避暑対策	
II-3) 「まだまだできた」と謙虚に反省。節電スキルを追求するベテランと、自信を深めたビギナー	
III. エアコンの節電対策 「耐える派」と「見直す派」	P.6-7
III-1) エアコンの価値や捉え方が変化した夏	
III-2) エアコンでの節電対策 できることはなんでもトライ！	

I. 「緊急対策」から「日常」に変わる節電意識

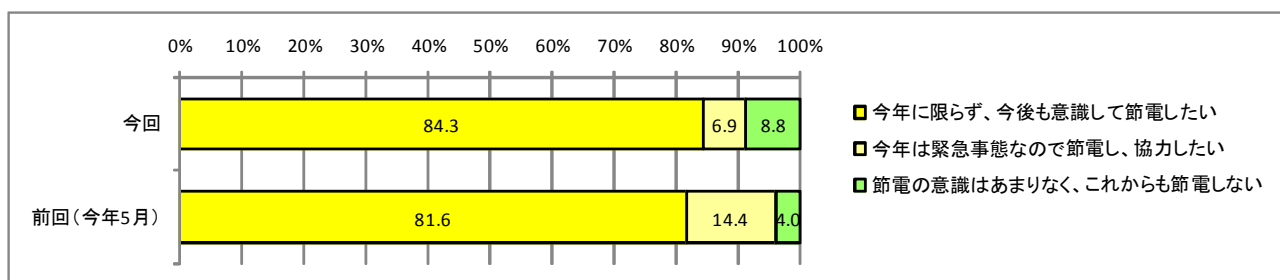
節電の夏を経た後、節電意識がどう変わったのか、前回の調査結果と比較してみました。

「今年に限らず、今後も意識して節電したい」と回答した人は、5月の調査では81.6%でしたが、今回の調査でも84.3%と高水準を維持しており、国民の高い節電意識が持続していることが分かりました。節電が一過性の緊急対策ではなく、日常的に意識すべきものとして定着しつつある傾向が伺えます。

高い意識が持続した具体的な理由として、「常に意識することで当たり前になるから」「きっかけは地震だが、節約ができ、他に有効に使いたい」という意見が多くみられ、節電によって新たな気づきや学びがあったと感じる人が多いようです。

また、これまでの漠然とした「エコ」「省エネ」という意識から、「資源の少ない日本では使えるエネルギーも無尽蔵ではない」「電気料金だけでなく、電気を含む日本のエネルギーの今後のあり方を考えたい」など、明確な問題意識を持ち、それと関連付けながら自分が節電することの意味付けをする人も見られました。

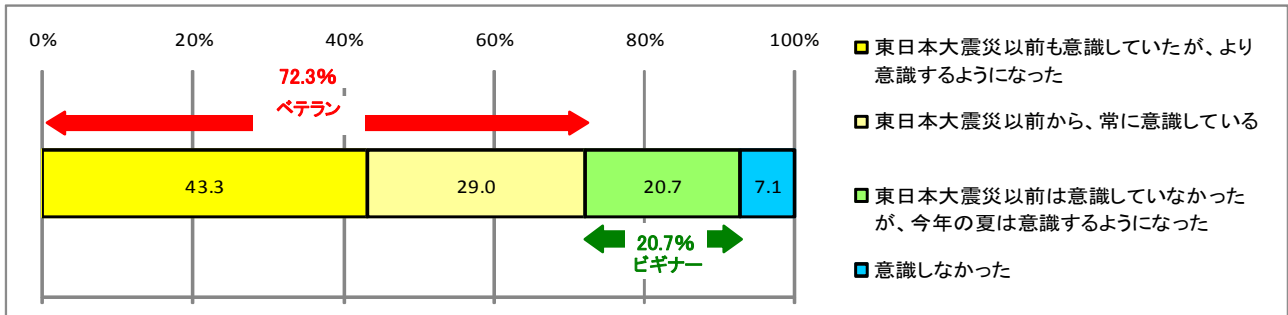
図1: あなたの今後(秋以降)の節電意識について、あてはまるものを1つお選びください。〈n=624〉



Ⅱ. 節電元年！全国で臨んだ節電の夏 ～節電ビギナーほど大きく変化～

5月の調査では、今夏から節電に挑戦しようという2割の人を“節電ビギナー”と名づけました。今回の調査でも震災前から節電を意識していた“節電ベテラン”(72.3%)と、震災以後意識するようになった“節電ビギナー”(20.7%)の比率は変わっていないことが確認できています。二つの層に大きな違いはあるのでしょうか。

図2: あなたは、今年の夏(2011年)、節電を意識しましたか？<n=624>

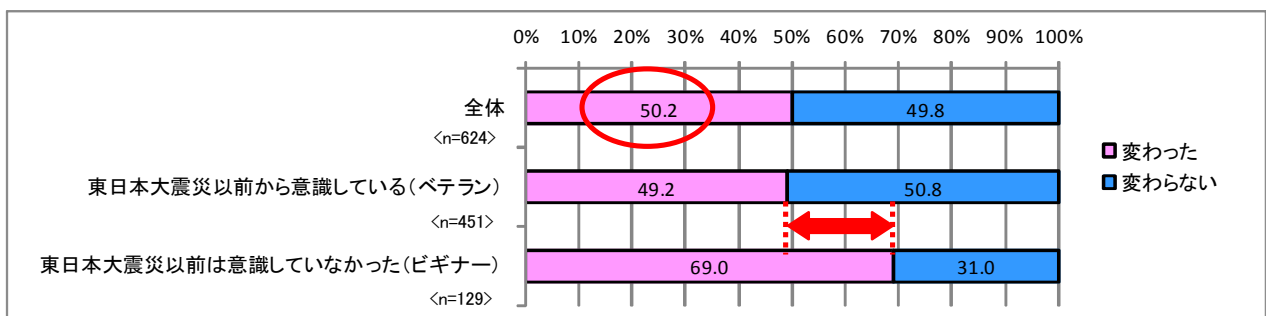


Ⅱ-1) ライフスタイルが大きく変化したビギナー層

今夏の節電をきっかけに、電気を使用するライフスタイルに対する意識や考えが変わりましたか？

全体では、50.2%もの人が「変わった」と回答しています。「変わった」と回答した人を、ベテランとビギナーで比較すると、ベテラン49.2%に対し、ビギナーは69.0%と大きく上回り、ビギナーほど、節電によってライフスタイルが変化したことが伺えます。

図3: あなたは、今夏の節電をきっかけに、電気を使用するライフスタイルに対する意識や考えが変わりましたか？



実際の声を見ると、様々な節電術をライフスタイルに取り入れ、こまめに実施していた人が多数いることが分かりました。中には、「電気の無駄使いやありがたみがわかった」といった認識の変化や「やってみると意外とできた」という達成感を感じている回答もあります。

<ベテラン>

- ・少しの心がけの積み重ねが具体的な結果に結びつくという意識を強くもつようになった。(22歳女性・神奈川県)
- ・無駄な電気が多かったことに気づいた(25歳女性・新潟県)
- ・これまでは電気代を抑えるという目的だったが、社会的使命感がのっかり、節電の努力をしていない人を若干軽蔑するようになってしまった。(35歳女性・東京都)
- ・便利さを犠牲にしても、より節電を心がけるようになった。(50歳男性・香川県)

<ビギナー>

- ・意外と無くても大丈夫なものがたくさんあって今までは使いすぎだったんだと思った。(29歳女性・神奈川県)
- ・電気の使い方を考えるライフスタイルに変化した。(32歳男性・埼玉県)
- ・心の中に常に節電の気持ちを持つようになった(61歳男性・岐阜県)
- ・驚くほどの節電ぶりに自分自身びっくりした。(64歳女性・大阪府)

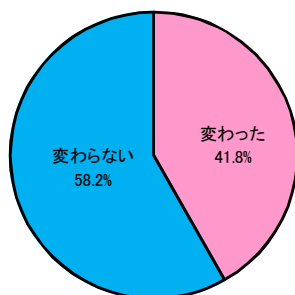
Ⅱ-2) 今夏をきっかけに多様化する夏の避暑対策

今夏の節電をきっかけに、夏の避暑対策に対する意識や考えが変わりましたか？

全体で41.8%の人が「変わった」と回答しました。具体的には、これまで安易に頼っていたエアコンでの避暑対策を見直し、昔ながらの打ち水やすだれ・よしず、対策グッズの活用など、避暑対策が多様化する傾向が見られました。

今夏、実際にやってみた結果、意外に効果があることを体感し、今後もいろいろと試してみたいと考える人が増えているようです。特に、性別で比較すると「変わった」と回答した男性34.3%に対し、女性は49.4%と上回ります。

図4:あなたは、今夏の節電をきっかけに、夏の避暑対策に対する意識や考えが変わりましたか？<n=624>



<男性>

- ・日中はデパートやショッピングモールに行くようにした。(41歳・埼玉県)
- ・水枕を使って寝る。(48歳・千葉県)
- ・自宅に遮蔽幕を張った。(72歳・埼玉県)
- ・生活スタイルを夜型から朝型に変えた。(78歳・和歌山県)

<女性>

- ・よしずの効果を知った。テレビでも特集していたこともあり、周りとの話すことも多かった。(27歳・兵庫県)
- ・単に冷房の利用を避けるだけでなく、冷感スプレーなどの工夫の重要性を理解した。(28歳・東京都)
- ・できるだけ公共施設を使う。(39歳・岡山県)
- ・レースのカーテンを遮熱用に買い替えた。(63歳・宮崎県)
- ・部屋の中に風の通り道を作る、打ち水をするなど昔の避暑対策を参考にする。(79歳・山口県)

Ⅱ-3) 「まだまだできた」と謙虚に反省。節電スキルを追求するベテランと、自信を深めたビギナー
自己採点は59.83点⇒68.81点（約9点アップ）

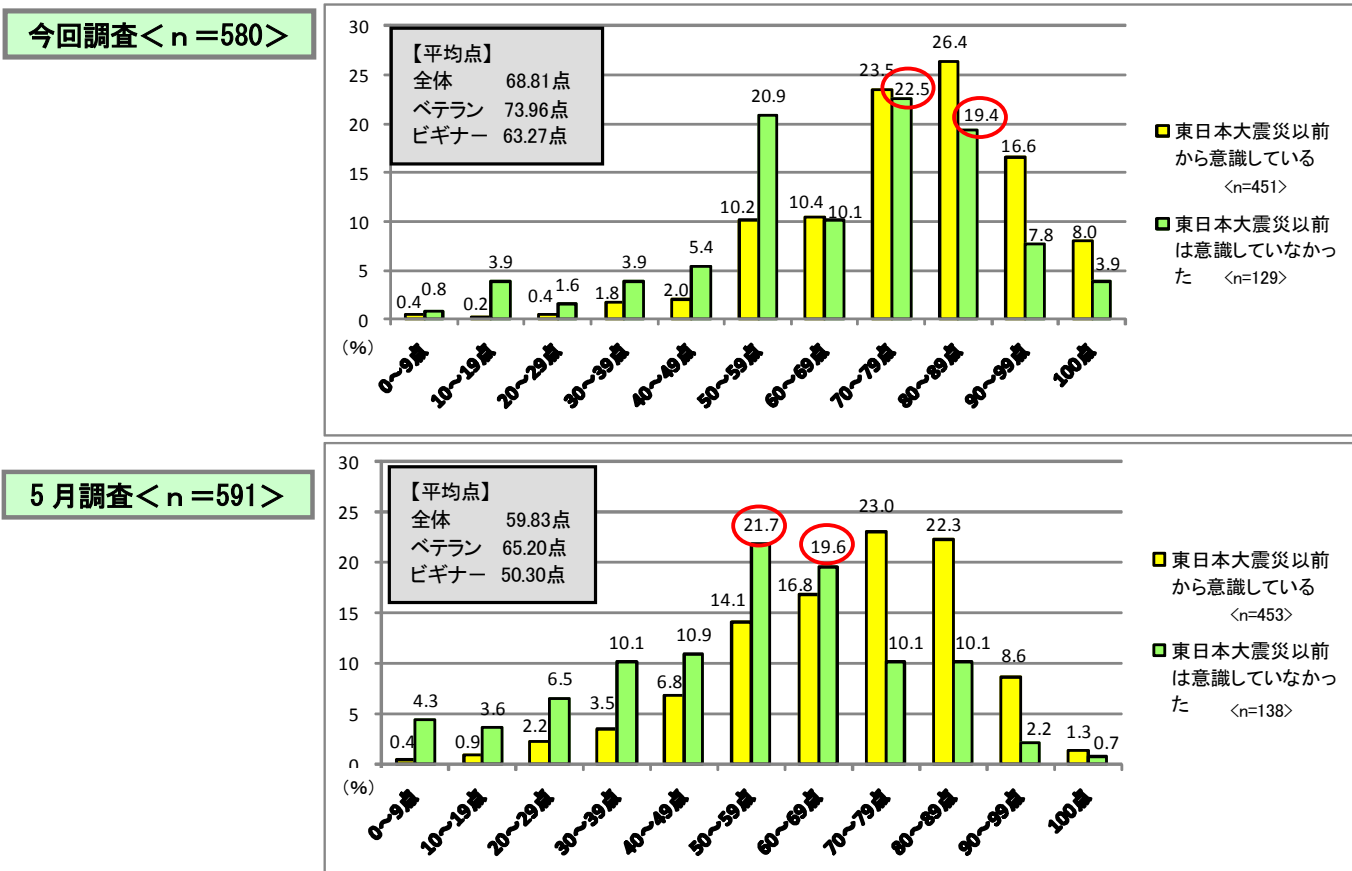
あなたの節電貢献度を自己採点すると、100点満点中、何点ですか？

前回（5月）の調査結果と比較すると、節電を始める前の平均点数は59.83点だったのに対し、節電実施後は68.81点と、8.98点高くなっています。ビギナーにいたっては平均が13点高くなっており、実施後、自信を深めたことが伺えます。

ビギナーは、前回は50～69点に集中的に分布していましたが、今回の調査では、70～89点にシフトしており、初めての節電の手ごたえや成功体験が自信につながり、自己評価も高くなったと考えます。

ベテランでは、従来以上に様々な対策を実践しながらも、自己採点では満点をつける人が少なかったことも興味深い点です。「まだまだできた」「もっと徹底している人もいるはず」「自分の知らない工夫があるのは」というように自分自身を厳しく見つめ、辛めに自己評価した結果だと思われます。

図5: あなたの節電貢献度を自己採点すると、100点満点中、何点ですか？



<ベテラン>

- ・まだまだ節電できる箇所があると思うが見つけれない。(20歳男性・北海道)
- ・震災前から意識してやっているが、まだ改善点はあると思っている。(52歳女性・新潟県)
- ・家族全員に徹底することができなかった。(57歳男性・愛知県)
- ・他人からみれば雑巾を絞るようにまだ節電の余地があるかもしれない。(60歳女性・滋賀県)

<ビギナー>

- ・今年の夏は人生で一番節電に心がけた。(29歳女性・宮城県)
- ・大地震後、家の中を見直して unnecessary コンセント全て抜いた、炊事洗濯も意識しながら使用した結果電気代がかなり減った。(37歳女性・東京都)
- ・これ以上頑張りようがないほど頑張った。自分自身をほめてやりたい。(64歳女性・大阪府)

Ⅲ. エアコンの節電対策 「耐える派」と「見直す派」

Ⅲ-1) エアコンの価値や捉え方が変化した夏

今夏の節電をきっかけに、エアコンに対する意識や考えが変わりましたか？

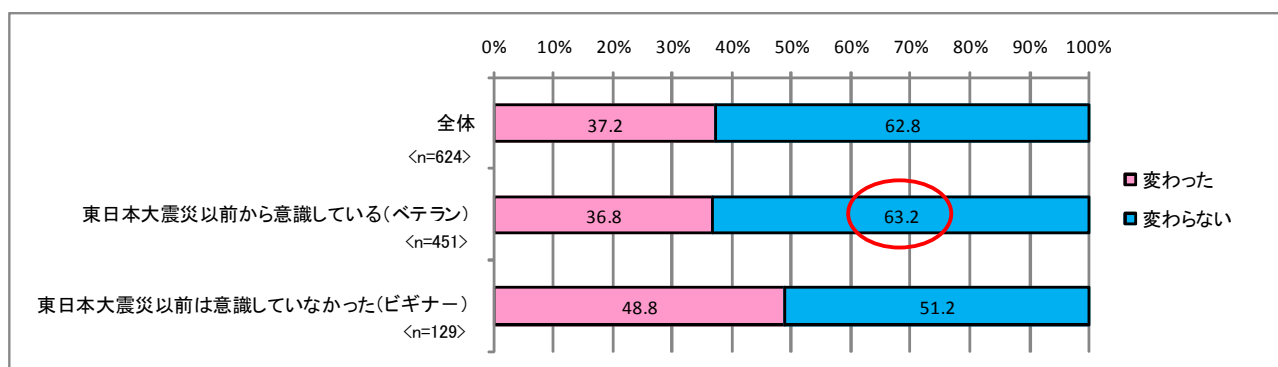
「変わった」と回答した人は4割でした。ベテランとビギナーで比較すると、「変わった」と回答した人は、ベテラン36.8%に対し、ビギナーは48.8%と上回る結果となりました。具体的には、エアコンのしくみを知ることや有効に使用するノウハウなどについて、テレビや雑誌、インターネットなどで情報収集するといった、学びのきっかけになったという回答が多くありました。一方で、ひたすら暑さを我慢し、ギリギリの状態になるまで使わないといったシンプルな方法で、節電した人もいます。

「変わらない」と回答した6割の人は、ベテランが多くを占めており、今夏以前からエアコン節電術を確立している人が多いようです。そのため、従来から意識していたことであり、今回特別に変わったという実感はないようです。

エアコンのありがたみを感じるという声もある一方で、これまでのエアコンへの依存に対する反省や、使用に対する見直しの声もあり、どちらの面からも、エアコンの価値や捉え方に変化が生じた夏でもありました。

これまで政府が推奨してきた冷房の28℃設定については、今夏の節電によって初めて実施してみるきっかけになった人が多く、実際に28℃設定で過ごしてみて、問題ないと感じた人も多く見られます。

図6:あなたは、今夏の節電をきっかけに、エアコンに対する意識や考えが変わりましたか？



<耐える派>

- ・今までは必要以上に部屋を冷やしていた無駄に気がついた。多少の暑さは今では耐えられるものになった。(30歳女性・埼玉県)
- ・我慢するときは我慢する。(37歳男性・神奈川県)
- ・エアコンを掛けるのが当たり前の生活から我慢の生活の意識へ(70歳女性・岐阜県)

<見直す派>

- ・27~28 設定でも問題なく過ごせることがわかった。(29歳女性・宮城県)
- ・温度設定を少々高くしても扇風機を併用すれば案外涼しいことを知った。(43歳男性・大阪府)
- ・温度を高め設定したけれど、不快な感じはなくて、電気代も節電できることが分かった。(59歳女性・東京都)
- ・エアコンを知る事によって、節電できる使い方を学んだ。(60歳男性・岡山県)

Ⅲ-2) エアコンでの節電対策、できることはなんでもトライ

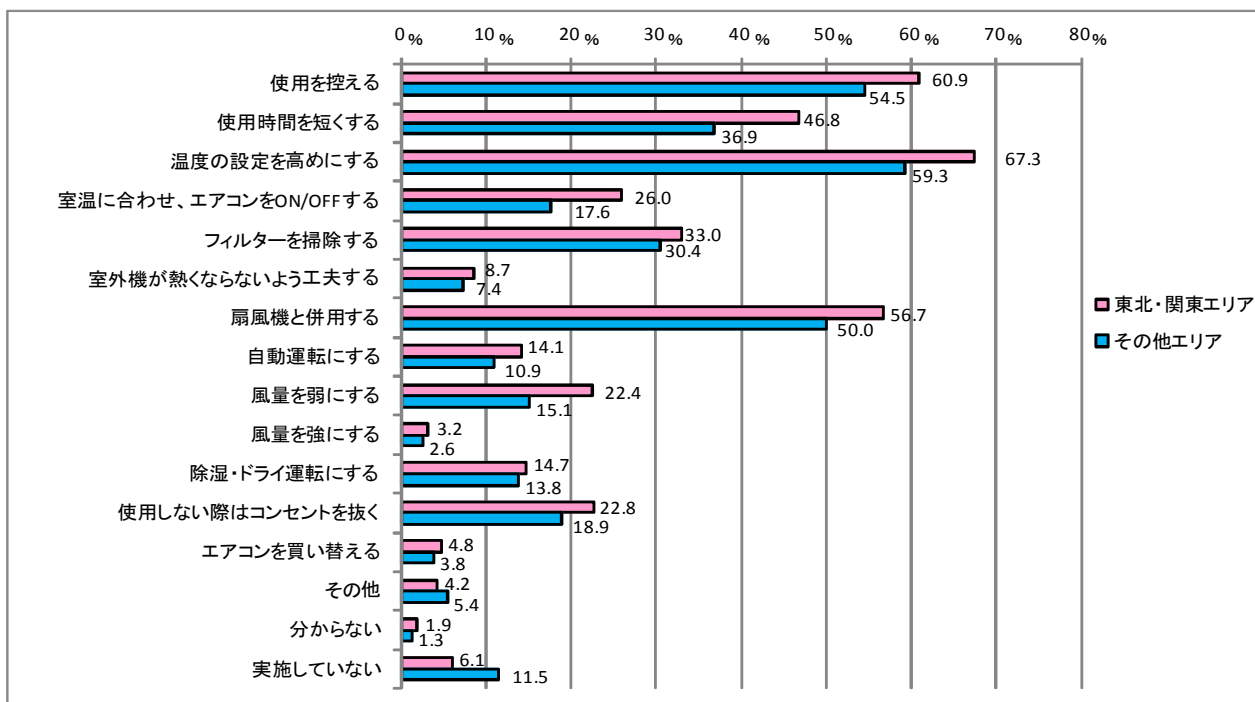
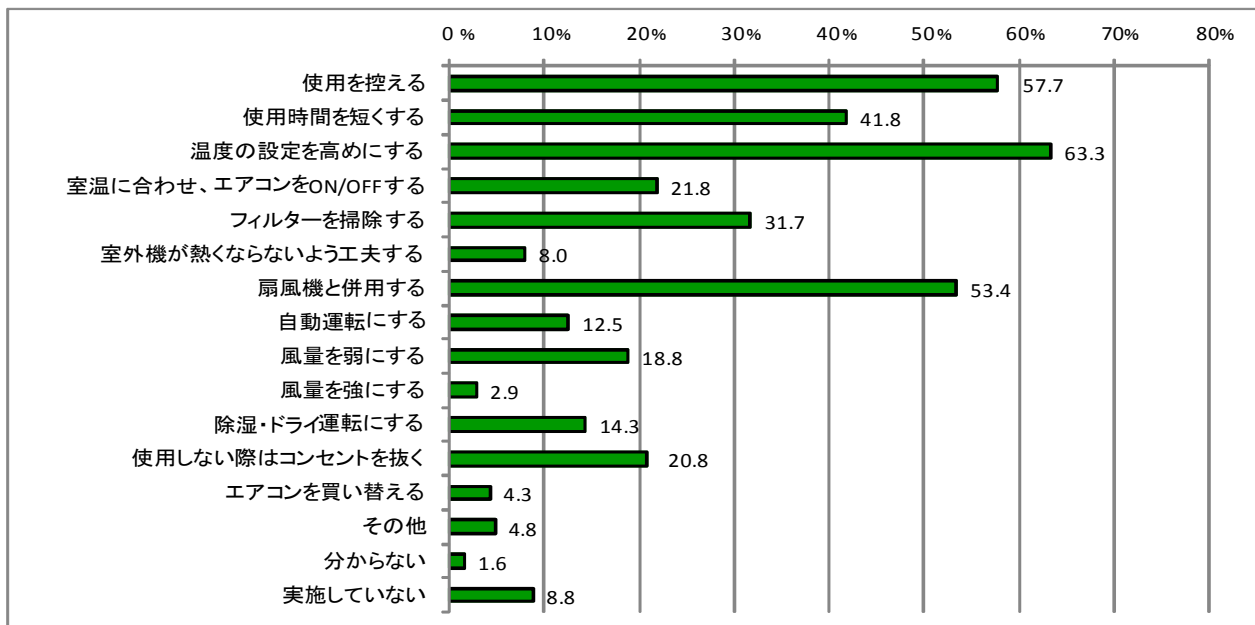
今年の夏、実施したエアコンの節電対策は？

前回の調査では、高い節電目標実現の手段として約8割の人がエアコンでの節電に期待をしていることが浮き彫りになりましたが、実際にどのような対策をとった人が多かったのでしょうか。

今夏エアコンの節電対策を全く実施していない人は、8.8%と非常に低く、ほとんどの方が何らかの対策を実行したことが分かりました。特に、「使用を控える」(57.7%)、「使用時間を短くする」(41.8%)など、エアコンの稼働を減らす傾向が顕著に出ており、エリアでみても、東北・関東エリアはその他エリアよりも高くなっています。

また、「扇風機と併用する」(53.4%)も非常によく試みられており、今後併用するのが常識として定着しそうです。それら以外に、効果がある節電対策としてフィルター掃除や自動運転、室外機周りの対策はまだ浸透していないことが分かります。

図7: 今夏のエアコンの節電対策についてお聞きます。あなたが今年の夏、実施したエアコンの節電対策は何ですか？<n=624>



<まとめ>

節電元年ともいえる今年を起点として、今後も節電は社会的なテーマであり、関心事であり続けます。節電を続けていくためには、我慢する節電だけでなく、快適と節電を両立できるよう、節電の知恵を上手く取り入れて、無理しすぎない節電をすることが必要です。

今夏は、国民全体が一体となって、節電について考え、実践し、自分事となったターニングポイントであったといえます。今後も節電意識を持ち続け、節電スキルを磨き、実践を重ねていく自信を深めたともいえ、継続的に節電できる意識の基盤が整ったともいえそうです。

【調査概要】

- 表 題 : 「節電の夏を過ごして変わったもの、変わらなかったもの」に対する意識調査
- 調査主体 : ダイキン工業株式会社
- 調査方法 : アンケート調査（インターネット調査による）
- 調査期間 : 2011年9月3日（土）～9月4日（日）
- 調査対象 : 全国の20代、30代、40代、50代、60代、70代の男女
- 回答人数 : 624名（男性312名、女性312名） ※内訳は下表の通り

エリア	性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
東北・東京電力管内エリア	男性	26	26	26	26	26	26	156
	女性	26	26	26	26	26	26	156
その他エリア	男性	26	26	26	26	26	26	156
	女性	26	26	26	26	26	26	156
合計		104	104	104	104	104	104	624

- ※東北・東京管内エリア: 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、山梨県、静岡県
※その他エリア: 上記以外の道府県、静岡県の富士川以西

■報道機関からのお問い合わせ先

ダイキン工業株式会社 コーポレートコミュニケーション室

【本社】 〒530-8323 大阪市北区中崎西二丁目4番12号（梅田センタービル）
TEL (06) 6373-4348（ダイヤルイン）

【東京支社】 〒108-0075 東京都港区港南二丁目18番1号（JR品川イーストビル）
TEL (03) 6716-0112（ダイヤルイン）

空気のライブラリ <http://www.daikin.co.jp/kuuki/library/>

エアコンの節電対策に関するサイト <http://www.daikin.co.jp/setsuden/index.html>